

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おもちゃ箱ふれあいの丘[放課後等デイサービス]			
○保護者評価実施期間	R8年 8月 1日		～	R8年 8月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	R8年 8月 1日		～	R8年 8月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 8月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づいた支援と、多様な活動プログラム	児童一人ひとりの発達段階や特性、興味関心、保護者からのご要望等を踏まえて個別支援計画を作成し、支援目標を職員間で共有しながら日々の支援を行っています。個別支援計画については、保護者への説明や定期的なモニタリングを行い、児童の成長や変化に応じて支援内容を見直しています。 日々の活動では、個別活動と集団活動を組み合わせながら、日常生活の充実、自立支援、創作活動、余暇活動、地域への外出等、様々な経験ができるようプログラムを設定しています。また、児童の年齢や特性、興味関心に合わせて内容や参加方法を調整し、一人ひとりが無理なく活動に参加し、成功体験や達成感につなげられるよう工夫しています。	今後も、児童の成長や発達段階に応じて個別支援計画と日々の活動内容を定期的に振り返り、活動を実施すること自体が目的とならないよう、「この活動を通してどのような力や経験につなげるのか」という支援のねらいを職員間でより明確に共有していきます。 また、高学年児童の利用も増えていることから、年齢や発達段階に応じた活動内容や余暇の過ごし方についても検討し、児童自身の興味や意見を取り入れながら、個々の成長や将来の生活につながる経験を提供できるよう、支援プログラムのさらなる充実に努めてまいります。
2	朝礼を中心とした職員間の情報共有とチーム支援	毎朝必ず朝礼を実施し、当日の利用児童の状況、支援上の留意点、送迎、職員配置、担当児童等について確認しています。前日の支援内容や必要な申し送りについても共有し、職員一人ひとりがその日の役割と支援上のポイントを理解した上で支援に入れるよう努めています。 また、利用児童の特性や当日の状況、活動内容等に応じて担当児童の割り振りを行い、職員の役割を明確にしています。学校との情報共有や送迎時の連絡調整についても職員間で必要な情報を共有し、事業所内だけで支援を完結させるのではなく、学校や関係機関との連携を意識した支援を行っています。	朝礼での情報共有を基本としながら、支援中に得られた気づきや効果的だった関わり方、児童の変化についても記録等に残し、勤務状況等により朝礼に参加できない職員にも必要な情報が確実に伝わる仕組みを継続して整えていきます。 また、職員個人の経験や判断だけに頼るのではなく、「どのような場面で、どのような支援を行うか」という支援の基準や目的について職員間で擦り合わせを行い、担当する職員によって対応に大きな差が生じない、一貫したチーム支援につなげてまいります。
3	研修・関係機関連携を活用した支援の質の向上	職員の専門性や支援力の向上を図るため、法人内研修だけでなく、必要に応じて社外研修へ参加する機会を設けています。研修を通して、障害特性や支援方法、安全管理、虐待防止等について継続的に学び、職員一人ひとりが知識を更新しながら日々の支援に活かせるよう取り組んでいます。また、学校、相談支援事業所、保健・医療・福祉等の関係機関との連携についても、児童の状況に応じて必要な情報共有や会議への参加を行っています。児童を事業所内だけで捉えるのではなく、家庭や学校等での様子も含めて理解し、生活全体を見据えた支援につなげることを意識しています	研修への参加だけで終わらず、研修で得た知識や支援方法を職員間で共有し、実際の児童への支援にどのように活用できるかを検討する機会を設けていきます。また、日々の支援で生じた困りごとや対応について職員間で検討し、研修内容と実践を結び付けながら事業所全体の支援力向上を図ってまいります。 関係機関との連携についても、必要に応じて助言や専門的な視点を取り入れ、多角的に児童を捉えながら支援を検討できる体制づくりを進めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会と、その取組の周知	支援時間の変更に伴い、これまで利用していたログハウス等の地域施設へ出向く機会が減少しています。一方で、近隣事業所との交流や系列事業所と合同で行う土曜日支援等を活用し、地域施設へ出向く機会を設けるなど、地域との関わりを持てるよう取り組んでいます。 しかし、保護者評価では地域の他児との交流について「はい3名、どちらともいえない2名、いいえ3名、わからない5名」と回答が分かれており、交流機会そのものの充実に加えて、現在行っている取組が保護者の皆様へ十分に伝わっていないことも課題と捉えています。	児童の年齢や特性、支援時間等を考慮しながら、系列・近隣事業所との交流、土曜日支援、地域施設への外出等を活用し、地域と関わる経験を継続して設けていきます。 また、単に外出するだけではなく、公共施設の利用や地域でのルール、地域の人との関わり等、児童の社会経験につながる活動として目的を明確にしていきます。実施した活動についてはLINE公式等で目的や児童の様子も含めて発信し、保護者の皆様にも事業所の地域交流に関する取組を知っていただくよう努めてまいります。
2	家族支援・保護者同士の交流機会	日頃から送迎時や事業所利用システム等を通して児童の様子を保護者と共有し、必要に応じて相談対応や面談を行っています。保護者評価でも、日頃の情報共有や定期的な面談については全回答者から「はい」との評価をいただいています。 一方、家族支援プログラムや保護者・きょうだい同士の交流機会については回答にばらつきが見られています。個々のご家庭への相談支援は行えている一方で、保護者同士の交流や、家庭での関わり方について学ぶ機会等、「家族全体を対象とした支援」についてはさらに充実させる余地があると考えています。	これまで行っている日常的な相談対応や面談を継続しながら、保護者の皆様が家庭での関わりに活かせる情報提供についても充実させていきます。 また、保護者やきょうだいを含めた家族が参加できる行事等、無理なく参加できる交流機会についても検討していきます。家族支援について「実施しているものの伝わっていない」という状況にならないよう、事業所で行っている相談支援や家族支援についても分かりやすく周知してまいります。
3	年齢や人数に応じた活動スペース・環境設定	児童の年齢や人数、活動内容によっては活動スペースが手狭になる場合があります。特に高学年児童が複数名利用する際には、身体の大きさや活動内容、余暇の過ごし方等によって必要となるスペースも変化するため、限られた空間の中で安全かつ落ち着いて過ごせる環境を確保する必要があります。	現在行っているマットの色分け等による視覚的なゾーニングを継続し、活動する場所、余暇を過ごす場所、個別に落ち着いて過ごす場所等を児童にも分かりやすく設定していきます。また、その日の利用人数や児童の年齢、活動内容に応じて家具や活動場所の配置を柔軟に変更し、限られたスペースを有効に活用していきます。室温や換気等についても適宜確認し、安全面だけでなく児童が心地よく過ごせる環境の維持・改善に努めてまいります。

	その他、アンケート結果やご要望等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	上階の室温・施設内の環境について	1階の個別に落ち着いて過ごすことのできるスペースについて、評価をいただきありがとうございます。児童がその時々のお気持ちや状態に合わせて安心して過ごす場所を選択できるよう、今後も個別スペースを活用してまいります。 上階の室温につきましては、児童の活動量や利用人数によって体感温度も変化するため、室温・湿度の確認を行うとともに、空調や換気等を適切に調整し、安全かつ快適に過ごせる環境づくりに努めます。また、活動場所については児童の年齢・人数・活動内容に応じて配置やゾーニングを工夫し、限られた空間を有効に活用してまいります。
2	送迎時の保護者との情報共有について	日頃より送迎時等の限られた時間の中でも、児童の様子を共有する機会を大切にさせていただきありがとうございます。事業所で見られた成長や活動中の様子だけでなく、ご家庭での様子や保護者の皆様を感じている変化、困りごと等についても伺い、家庭と事業所が共通理解を持ちながら支援できるよう努めてまいります。送迎時のみでは十分にお話することが難しい内容については、事業所利用システムや面談等も活用し、安心してご相談いただける関係づくりを継続してまいります。
3	地域交流・家族交流について	系列・近隣事業所との交流や土日支援、地域施設への外出等を活用し、児童が地域と関わる経験を継続して設けてまいります。また、保護者やきょうだいを含めた家族が参加できる行事や交流の機会についても、ニーズを踏まえながら検討していきます。実施した取組については、LINE公式等で活動の目的や児童の様子を発信することで、保護者の皆様にも事業所での取組をより身近に感じていただけるよう努めてまいります。